



楠公史跡 INDEX

① 楠公誕生地

楠木正公は、永仁2年（1294）4月25日に、千早赤阪村水分山の井で生まれたと伝えられている。明治8年この地を訪れた大久保利通卿から、史跡の保護と顕彰を勧められ、「楠公誕生地」の碑が建てられた。東側からは、南北朝時代の堀や建物跡などが発掘されている。楠公産湯の井戸（伝承）が近くにある。

② 下赤阪城跡（赤阪城跡）
（国史跡）

元弘元年（1331）9月、楠木正公が後醍醐天皇を奉じて鎌倉幕府軍に対し最初に挙兵した赤阪城の跡と考えられている。太平記によると、堀も掘らず一重の塀と櫓で防備を整えた急ごしらえの城だった。当時から城の周辺には棚田が広がっていたようである。

③ 上赤阪城跡（楠木本城跡）
（国史跡）

元弘3年（1333）2月、せめてきた鎌倉幕府軍に対して千早城の大手として築城されていたもので、「楠木本城」、「大手本城」とも記されている。標高約350mの本丸跡は見晴らしがよく、六甲連山から明石海峡大橋まで望見できる。この城は後の戦国時代まで長く使用され、帯曲輪・堀切など山城の様子が今も残っている。

④ 千早城跡
（国史跡）

千早城は「楠木詰城」、「金剛山城」とも呼ばれ、太平記によると元弘3年（1333）2月、上赤阪城を落とした兵力100万と号する鎌倉幕府軍が攻め寄せた。迎撃した楠木正公は、わずか1000人足らずの兵で智謀を尽くして幕府軍を100日間釘付けし、この間に鎌倉幕府が滅亡、建武の新政をなし得た。

→ B面

⑤ 寄手塚・身方塚

楠木正公が、一連の戦いで命を落とした将兵の靈を弔うために建てたと言われ、敵（寄手）の供養塔を味方（身方）よりも大きとしたと伝えられている。

⑥ 奉建塔（楠公600年記念塔）

楠木正公没後600年記念として昭和15年に全国の児童、生徒、教職員などからの寄付を基に建設された。塔は正成公が43歳で戦死したと伝えられていることから、高さ43尺（約13m）に造られている。

⑦ 建水分神社

本殿（国重要文化財）・南木神社（国登録文化財）

後醍醐天皇の勅命により楠木正公が現在地に遷座したとされている。本殿は三殿からなり、渡廊で連結するという全国唯一の等式である。摂社に正成公を祭神とする「南木神社」がある。

⑧ 不本見神社

五輪塔（千早赤阪村指定文化財）

一夜でできたという不本見山の山頂に鎮座し、秋祭り宵宮には「ヤー木相撲」が奉納される。境内には鎌倉時代中期とされる層塔（五輪塔）が残されている。また、境内の平坦面は本宮城の跡であるとも言われている。

⑨ 金峰神社

高塚山山頂に鎮座し、楠木正公が築いた高塚山塞とも呼ばれる吉年の城跡である。

（楠公誕生地①を起点とした各史跡へのおおよその距離と所要時間は裏面に記してあります。）

